

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 7 月 26 日 (2007.7.26)

【公開番号】特開 2007-76999 (P2007-76999A)

【公開日】平成 19 年 3 月 29 日 (2007.3.29)

【年通号数】公開・登録公報 2007-012

【出願番号】特願 2006-54663 (P2006-54663)

【国際特許分類】

**C 0 3 C 17/32 (2006.01)**

**B 6 0 J 1/00 (2006.01)**

**B 3 2 B 27/40 (2006.01)**

**B 3 2 B 27/18 (2006.01)**

**B 3 2 B 17/10 (2006.01)**

**C 0 9 K 3/00 (2006.01)**

**C 0 9 K 3/18 (2006.01)**

【F I】

C 0 3 C 17/32 A

B 6 0 J 1/00 G

B 3 2 B 27/40

B 3 2 B 27/18 C

B 3 2 B 17/10

C 0 9 K 3/00 R

C 0 9 K 3/18

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 6 月 12 日 (2007.6.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

透明基材上に形成される防曇性被膜であって、該被膜は吸水率が 20 ~ 40 重量 % のウレタン樹脂よりなり、該ウレタン樹脂は、平均分子量 1000 ~ 4000 のアクリルポリオール、及び平均分子量 400 ~ 5000 のポリオキシアルキレン系ポリオールより誘導されてなるものであることを特徴とする防曇性被膜。

【請求項 2】

ポリオキシアルキレン系ポリオールが、平均分子量が 400 ~ 2000 のポリエチレングリコールであることを特徴とする請求項 1 に記載の防曇性被膜。

【請求項 3】

前記樹脂がさらに架橋単位としてジメチルシロキサンユニット ( $\text{Si}(\text{CH}_3)_2\text{O}$ ) の数が 5 ~ 300 である直鎖状ポリジメチルシロキサンを有することを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の防曇性被膜。

【請求項 4】

「JIS K 7125」に準拠して得られる被膜の静摩擦係数が、被膜が吸水していない状態で 0.8 以下、吸水飽和状態で 0.9 以下であることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載の防曇性被膜。

【請求項 5】

被膜の膜厚が  $5 \sim 50 \mu\text{m}$ であることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれかに記載の防曇性被膜。

【請求項 6】

請求項 1 乃至請求項 5 のいずれかに記載の被膜と透明基材とでなる防曇性物品。

【請求項 7】

防曇性被膜を形成するための塗布剤であり、該塗布剤はイソシアネート基を有するイソシアネート成分を有する塗布剤 A、ポリオール成分を有する塗布剤 B とからなる 2 液硬化型の塗布剤よりなり、該ポリオール成分は、アクリルポリオール、ポリオキシアルキレン系ポリオールを有することを特徴とする塗布剤。

【請求項 8】

ポリオキシアルキレン系ポリオールが、ポリエチレングリコールであることを特徴とする請求項 7 に記載の塗布剤。

【請求項 9】

重量比でポリエチレングリコール：アクリルポリオール =  $50 : 50 \sim 70 : 30$ であることを特徴とする請求項 7 に記載の塗布剤。

【請求項 10】

透明基材に請求項 7 乃至 9 のいずれかに記載の塗布剤を塗布し硬化させることを特徴とする防曇性被膜の製造方法。

【請求項 11】

請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載の防曇性被膜を、被膜の吸水飽和後に強制的に被膜から脱水させる機構を有する室内環境で使用し、防曇性発現時に水膜を形成しないことを特徴とする透明基材の視界を確保する方法。

【請求項 12】

被膜の吸水飽和後に強制的に被膜から脱水させる機構を有する室内環境が自動車の室内であることを特徴とする請求項 11 に記載の透明基材の視界を確保する方法。

【請求項 13】

請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載の防曇性被膜を冷凍庫内に保持し、該被膜を常温にもたらしたときに被膜に曇りを発生させないことで透明基材の視界を確保する方法。